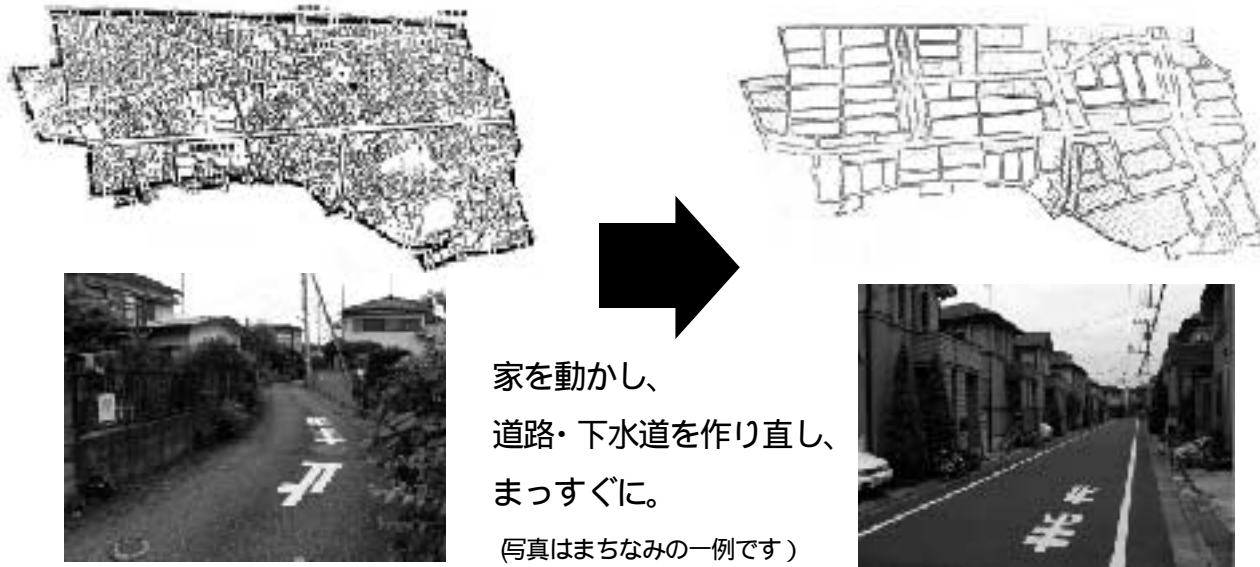


羽村駅西口
区画整理

どこから見ても現実的でない！ 市のまちづくり案は見直しを

日本共産党



家を動かし、
道路・下水道を作り直し、
まっすぐに。

(写真はまちなみの一例です)

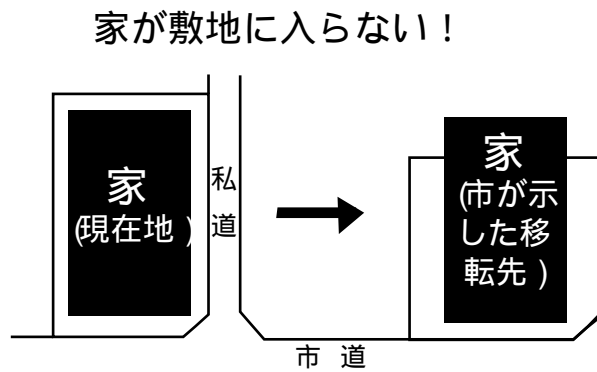
羽村市の6月議会が開かれています。3名の共産党市議団は、暮らしをまもる立場に立って、さまざまな問題について質問をおこなっています。

今回は、10～12日におこなわれた一般質問のうち、鈴木たくや議員がおこなった「羽村駅西口区画整理事業」についての質問の内容をお知らせします。

<市がしめした設計図——住民への驚くような、あきれられるような負担>

羽村市は、羽村駅西口地区の住宅をどう移動してまちづくりをすすめるかの具体的な「設計図」を示しました。その中には驚くようなものがあります。

鈴木議員がとりあげたのは、右図のケース。敷地の面積は変わりませんが、長方形が正方形になるため、家が入りません。



しかも市は、建て替え費用の一部しか補償せず、100万円ちかい精算金も請求するというのです。家を壊せというだけでなく、多額の自己負担をせよというのです。

お住まいのお年寄り「まだ住宅ローンがたくさんあって、年金から払いながら細々と暮らしているのに！市長には、貧乏人を守る心でやってほしい。」と怒り心頭です。

市は、原則として、曳き家（現在の住宅をひっぱって移動すること）で町づくりをすると言っています。しかし、鈴木議員の質問に対し、全体の3割近くが、図のケースのように建て替えが必要になると見込んでいると、市は答弁しました。

住宅が立ちならぶ西口地区を、まっすぐの町並みに変えるという「区画整理」方式でのまちづくりが、いかに無謀な計画であるかがうきぼりになっています。

「将来も住み続けていけるようなまちをつかっていきたい」との市の答弁がむなしく議場に響きました。

<目にとびでるほどお金がかかる——市民全体の暮らしにしわよせ>

負担がおしつけられるのは、西口の住民だけではありません。市の計画は総額355億円もの巨費を投入することになっており、市民全体の暮らしにその「しわよせ」がくることになります。

鈴木議員は、市の負担が急激に増える平成24年からの5年間について、どうやって工事の資金を調達するのか質問しました。

市はこの期間に約56億円の借金をすること、「一般会計」から毎年約7億円の資金を投入することを答弁。「一般会計」は、福祉・教育・子育てなど、日々の市民の暮らしを支える市のサイフです。現在はここから毎年、約2億円を西口区画整理に使っています。

